

第16回川崎市地域教育会議交流会 実施報告

テーマ 『コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の拡充と地域教育会議のあり方』

1 日時

令和2年2月15日（土） 12:00～16:10

2 場所

幸市民館 大会議室ほか

3 内容

- (1) 展示交流：地域教育会議の活動紹介
- (2) 事例発表：
「地域教育会議の改革の実践」（玉川中学校区地域教育会議 合田議長）
「コミュニティ・スクールから見た地域教育会議と、
地域教育会議から見たコミュニティ・スクール」
（宮前平中学校区地域教育会議 金田副議長）
- (3) 情報提供：「川崎市における新たな地域教育ネットワークの構築に向けて」
（生涯学習推進課 片山係長）
- (4) グループ討議に向けて：グループ討議の進め方
- (5) グループ討議
- (6) 全体共有

4 参加者数

川崎区 8人 幸 区 9人 中原区 2人 高津区 6人
宮前区 13人 多摩区 15人 麻生区 6人
その他、名簿に記載のない行政関係者等も含めると70人程度

5 事例発表

【玉川中学校区地域教育会議 合田議長「地域教育会議の改革の実践」】

関わっている人が固定化し、閉塞感や行き詰まり感があったので、去年の議長と今年の議長である自分が2年間かけて見直しを進めてきた。

1. 地域主導の事務局運営

事務局は2小1中の3校で2年ごとに担当校を回し、連絡や資料の作成、会議の運営などは主に学校の先生（教務主任）が行っていた。そんな中、「先生に事務作業を負担していただくのはおかしいのではないか」「先生にはもっと子どもたちに時間を使ってほしい」との声が委員からあがり、地域教育会議は地域主体のものだという本来の姿に立ち返った。先生たちは数年で異動してしまう。先生には勤務している学校ではなく、自分の住んでいる地域で活躍してほしいと考えている。現在、事務局として学校にも入ってもらっているが、ほぼすべてを地域主体で行っている。

2. 体制の見直し

従来は議長1名・副議長2名の他に広報委員会と活性化委員会それぞれに委員長と若干名の副委員長という体制であった。実行委員会は議長団と学校の先生、各委員会の正副委員長と会計で組織されていたが、副委員長はPTA会長や副会長が自動的になることもあり、「やらされ感」が満載であった。しかし、各委員会と議長団を分ける必要はない

と考え、議長団が各委員会の委員長を兼ねることにした。実行委員も自動的になるのではなく、各PTAで決めてもらい、そこに地域の有志に加わってもらうことにしたので、実行委員会の議論が活発になった。広報委員会はほとんど幽霊委員になってしまっていたので、事務局が入るようにし、一緒に広報紙を作りたいに方はお願いします。先生方には子どもを育てるプロの立場から、見方や考え方に専念してもらい、実行委員会での発言に期待する。

3. 地域のつながり重視

これまで委員選出は前任者が後任者を見つけてきたが、地域の代表として出ていただくことを重視し、町会長・自治会長や子ども会の会長など団体の長に選出をお願いするようにした。広報物の配付も学校にお願いするのではなく、議長が町会長・自治会長に持参し、顔と顔を合わせることで地域とつながるようにした。地教がイベント屋として動くのではなく、地域が子どもたちのために行っている活動を伝える役目に専念した。

4. 時代に合わせた連絡手段

手紙など紙ベースの連絡を廃止し、原則メールでの連絡に。スマホがあればアプリで。Facebook ページを立ち上げて広報・お知らせを行う。会議の出欠連絡は「調整さん」で。

⇒事務作業を簡略化

5. 情報の整理、共有

Office365、One Drive、Google Photo でデータや写真の保存、共有。



6. イベントの方向性の見直し

これまで活性化委員会で年2回「活性化セミナー」を開催。宇宙授業や料理教室、アニメ映写会などを行った。しかし、子どもが喜ぶイベントは他の団体に任せ、地教は教育を語れる場を用意することに専念した。また、名称も「活性化セミナー」から「地教ワークショップ」に変更した。今年度は「避難所を学ぶ」というテーマで。

7. コミュニティ Café

おしゃべりをする場づくりとして月1回こども文化センターを借りて開催。テーマを決めて話をする。

課題としては、「会議・Café への参加率が上がらない」「子ども会議も限られた子たちしか参加できない形になっている」「地域のイベントを後押しする方法」「コミュニティ・スクールや地域と学校との連携についての学びが足りない」などが挙げられる。

【宮前平中学校区 金田副議長「コミュニティ・スクールから見た地域教育会議と、地域教育会議から見たコミュニティ・スクール」】

1. 土橋小学校について

- ・土橋小は2006年開校。2006年12月に学校運営協議会が設置された。開校2年目に子どもたちの声を受け、学校運営協議会主催の「土橋フェスタ」を開催したこともあり、先生方、保護者、地域住民が一つになった。
- ・開校当時、校庭は全面天然芝だったが、一年のうち3ヶ月は養生期間のため体育の授業をしたり休み時間に遊んだりできないという声があった。

⇒学校運営協議会で「芝生プロジェクト」を立ち上げ、鳥取まで下見に行き、校庭の一部を人工芝にした。学校運営協議会の活動で目に見える成果を実感することができた。

- 新しい学校だったので、何とか地域とつながりたいという思いから、体験学習のイベントを企画・運営してきた。地域・保護者・先生が講師になる 30～40 種類の「チャレンジ学習」を夏休みに開催したり、子どもたちの要望から生まれた「土橋フェスタ」や、地域のシニアの方が子どもたちに昔遊びを教える「ふれあいマンデー」、子どもの意見表明の場である「しゃべるんDAY」を開催したりした。つちはしアクションに照らし合わせた学校評価、安全・安心な環境づくりをした。審議するだけでなく参画・協働による学校づくりに取り組んだ。
- 昨今、学校運営協議会制度の改定、先生方の働き方改革、社会に開かれた教育課程の実現などもあり、これまでとは体制を変えていかなくてはならない。また、保護者・教職員・児童に、コミュニティ・スクールのへの意識や理解をもっと広げたいとの思いがある。
- 新しい土橋小学校のコミュニティ…協働と実働を切り離す。学校運営協議会では協議・熟慮を重ねる。CSサポート本部はより実働性が高く自律した活動を目指している。
- コミュニティ・スクールの構成は学校運営協議会、CSサポート本部、PTA、教職員で、学校運営協議会は 16 名、CSサポート本部は 25 名で活動している。
- 開校前、子ども準備委員会が考えた“合い言葉”「つながるころ・ちからをあわせ・はじけるえがお・しあわせいっぱい」を教育目標として、子ども・保護者・教職員・地域住民の四者それぞれに達成をめざしている。
- イベントや行事の見直し…夏休みの 2 日間行っていたチャレンジ学習は先生方にとって負担であり、時季も暑いので、今年度から地域の寺子屋に移行し、月に 1 回程度さまざまなイベントを開いている。
- 学校運営協議会は、部会制から担当制へ改めた。部会は部会長や副部会長がいて、言われたことをやるような感じだったが、それぞれの活動に当事者意識をもって参加できるように担当制にした。現在はボランティアをコーディネートする方法についてのプロジェクトが始まっている。
- 信頼し合える、支え合えるコミュニティをめざしている。
- CS 日より…年 2～3 回発行し、地域・保護者に発信している。

2 宮前平中学校区地域教育会議について

- 100 名近い委員が大人部会、こども部会、広報委員会に分かれて活動している。自発的に専門性をもった活動となっている。

活動例として

プログラミング体験…論理的思考力を身につける。

安全マップの作成…安全な場所を子ども自身が見極める力を身につけ、犯罪に巻き込まれることを防ぐ。

ふれあい音楽会…年に 1 回、宮前市民館大ホールで開催。地域だけでなく、各学校の子どもたちや PTA も参加。学区 5 校の校長先生がほぼ毎回参加し、学校の様子を地域に話す場ともなっている。

- メンバー構成はコミュニティ・スクールも地域教育会議もほぼ同じで、地域住民、教職員、PTA・保護者を中心に活動しているが、活動範囲が違う。コミュニティ・スクールは土橋小のみだが、地域教育会議は 4 小 1 中の 5 校が対象。両方に関わって思うことは、雰囲気の違い。土橋小コミュニティ・スクールは、土橋小の子どもたちのことをみ



んなで話し合うが、地域教育会議は全体を見て「ふわっ」とした雰囲気を感じる。宮前平中学校区地域教育会議は、学校の関わりがやや弱い。コミュニティ・スクールは校長先生や教頭先生が必ず出席するが、地教はそうとは限らない。コミュニティ・スクールは学校に対して一定の権限を有する合議制の機関となっている。

- 地教において気になる点は、先生方の負担感。イベントなどは土日が多いので、先生に来てもらうのは申し訳なく思う。先生方に代休があるならば、少しは気が楽になるのではないかと思う。地域教育会議は、地域や学校の依頼があって活動するのではなく、あくまで自発的な活動なので、主導するメンバーがいるかどうかによって活動のレベルが全く異なっているように感じる。
- 中学校区単位でのコミュニティ・スクールを始めるのであれば、異なる各校が無理に合わせるのではなく、共通項から始めたり、1つの学校では難しいような人材活用などをしたりしてもいいのではないか。
- 学校が学校運営協議会を信頼してくれて、必要なことを本音で相談してくれたらうれしい。なかなか保護者には言えないようなことも、信頼し、本音で相談してくれれば運営協議会はそれを真摯に受け止め、学校だけではできないことなど具体的に考えることができる。
- 地域教育会議とコミュニティ・スクールはカウンターパートナーとしてどのように動いていったらいいのかということは正直分からないが、信頼し合い支え合うことが一番大事だと思う。
- 子どもたちの成長を身近で感じたり、名前を呼んでももらえるような関係ができたり、さまざまな立場・さまざまな年齢の魅力的な方たちと出会うことができたのはなによりうれしい。
- これがいい！ということはわからないが、本日の情報交換・意見交換を通して少しでもいい方向性が見えてくればいいと思う。

6 グループ討議 摘録

【グループ1】

○子ども会議について

- 最初は先生がピックアップした子ども達での会議だったが、今は、イベントを企画して子どもたちを集めている。しかし、忙しい子どもたちを集めるのは難しい。
- うち、地域の大人や先生方がテーマを決め、中学校の生徒会が進行する形で、小中学生の話し合いを行っている。
- 小中学生が話し合えるいい機会になっている。
- 地域の大人が子どもの声を聴くことが大事。
- やること自体に意味があり、結論を出すものではないと思う。

○教育を語るつどいについて

- 講師を呼んだり、子育てに関する話を行ったりしている。
- イベントや音楽会は、良いのだろうか？
- 「教育を語る」にこだわらない方が良いのではないか？

○その他

- コミュニティ・スクールは学校をサポートできればいい。
- 地域と学校が程よい距離でいられれば良いと思う。

【グループ2・3】

- 刻々と地教を取り巻く状況が変化してきて、新しい取組などが出来来ていると感じた。
- 事例発表がすごく参考になった。コミュニティ・スクールとの関係、小学校単位での活動、中学校区単位での地教との連携など、うまく進むように関係づくりをしていく必要

があると思った。

- ・玉川中学校区の、「イベントをやることが地教の趣旨だろうか。イベントは他の団体に任せる」という考え方に賛同した。同じ感覚を持っているが、うちは活動が活発で、長くやっている分、なかなか変えられない。
- ・土橋小のコミュニティ・スクールの話は、先進的な事例だと思ったが、私たちもできることがありそう。地教も、もっと変わるべきだと感じる。
- ・コーディネーターは、どういう人になるのか？資格は？毎年変わるの？
⇒地教の活動の中で事務局的な役割を担っているような方を想定している。資格はいらない。それぞれの地教から推薦してもらうため、地教の中で最適だと思えば毎年同じ方が推薦されてくるかもしれないし、或いは、毎年、順番でやりましょうというところもあるかもしれない。
- ・学校が忙しくて、地域と接点を作るのが難しくなっていると感じる。
- ・地教の活動に、もっと先生方も参加してほしいから、先生方が活動に携わった時間分を振り替えてできるような制度は絶対に必要。
- ・玉川中学校区の報告は画期的だった。
- ・ネットワーク会議と、新たな構成員を追加していく、という今日の提案で、初めてこの仕組みが腑に落ちた。
- ・コーディネーターの養成講座は各区でやるの？行政区でできるだろうか？
⇒来年度は、まずは全市で1本の養成講座をやりたいと考えている。
- ・うちの中学校区は、学校にほとんど頼っていない。ネットワーク会議的なものも、すでにやっている。1～2カ月に1回程度の割合で定例会を開き、各構成員の情報交換をやっているの、それをやっていないところのイメージがわからない。他の地教の定例会では何をやっているのだろうか？
- ・うちの定例会は、総会的な内容。先ほど説明があったような意味でのネットワーク会議的なものはできていない。
- ・ネットワーク会議で、各構成員が自身の活動について色々な話ができれば、もっとお互いの連携が進むと思う。
- ・同じ区内でも学区によって家庭の状況が違うから一概には言えないが、自分の学区は子ども達に大きな課題を感じないし、地域に何かを求めている保護者は少ないと思う。保護者が地域と接点を持つ機会も少ない。
- ・「家庭と地域の日」が設定され、地域で様々なイベントが企画されるようになってきたが、本来は親が子どもとゆっくりと過ごす時間を持ってほしい。保護者も、共働きで両親の休みが合わないなど家庭などが普通にあるので、子どもと接する時間がもっとほしいと思っている保護者が多い。そういう意味で、保護者自身がPTA活動とか地域の活動に参加することが難しくなっている。
- ・地域は、子どもが来てくれれば喜ぶし、お祭りや地域のイベントに呼ばれる機会が多いが、保護者の気持ちは違うかもしれない。
- ・保護者も地域の活動に参加しないし、子ども達が地域と関わる機会が減っているから、機会を作るのは大事だし、参加した子ども達も充実感はあるが…。
- ・地域の色々な大人と関わる機会は大事。

○子ども会議について

- ・目的は、子どもの意見表明の場を作ること。社会参加を促進すること。
- ・すぐく立派な子ども達が出て来て、本音なのかな？と思うような立派な意見を言ってくれる。
⇒今は、学校教育推進会議でも子どもの意見表明の場があるし、アクティブラーニングであらゆる教科の授業を通して意見を言う時間がとても大事にされているから、我々が子どもの頃と比べて、今の子ども達は意見を言うことになれていると思う。
- ・うちの子ども会議は、生徒会と児童会の交流のような形でしかやっていないが、小中学

生の交流の場としては意味があると思う。

- ・うちは任意参加で子どもを募っていたが、参加する子が少なくなってやめてしまった。
- ・子ども会議で出された意見、その場だけで終わってしまい、もったいない。どこかにつなげてあげたい。
- ・家庭の有り様、20年前と全く違う。子育てが終わった我々の世代と、今の保護者の世代も考え方が違う。そういう中で、地域教育会議は、事業や活動の有り方を常に見直していくことが必要だと思う。

【グループ4】

- ・中学の地教が本部になっていくとわかりやすい。
- ・コミュニティ・スクールについては、学ぶ機会があまりない。小中9年間で育てたい子ども像…イメージがわからない。

○子ども会議について

- ・高津区は中学校区で子ども会議を開催しているところは1か所。それ以外は行政区に集約して活動している。
- ・行政区の子ども会議は必要ないのでは？子どもを集めることに意味がない。各中学校区の子どもの会議のリーダーを育成するという趣旨ならば意味があると思う。
- ・地域で大きな取組があった方がよい。
- ・小中で一緒に話し合う機会に意義がある。
- ・参加する子どもが限られている。
- ・市・区・中学校それぞれで子ども会議をやる必要があるのだろうか？子どもが少ないのに。
- ・子ども会議の成り立ちが異なる。すでに区の地教の子ども会議がスタートしていて、後から条例ができ、市の子ども会議が誕生した。
- ・子どもの意見表明の機会をいかに補償するか。
⇒人に伝えられない子ども達への場を、地域のコミュニティの中でどう作るか。
⇒家にこもっている子ども達の問題。
⇒子どもの意見を受けて、大人が動き、街や子ども達の生活が改善されるなど、子ども達が街を好きになるようなことができるといい。
- ・子どもを集めたいという考えから、コンサート開催へと事業内容が緩くなっていった。
- ・中学校区・区・市の子ども会議で連携・情報共有がなされておらず、会議が重なることもある。

○教育を語るつどいについて

- ・見知らぬ人と話せる場としてはいいと思う。
- ・大人が話し合ってもらいたい。
- ・高津区では親の学びの場として、講演会の後にグループワークをすることを基本としている。
- ・興味があるテーマにすると参加者は集まるのではないだろうか。

【グループ5】

○子ども会議について

- ・子ども目線で意見が出る形は残していきたい。
- ・子どもの意見を、反映させてあげたい。
- ・うちは中学校区中心で運営してくれていて、生徒会の子どもが参加している。子どもが何を欲しているのか探るのが難しいし、子どもの意見がどこかに反映されているのかすら分からない。

- ・子どもが参加する場を作ることができてきた。会議の進行を子どもと共有することができてきている。
 - ・今年度「大人に言いたい」というテーマにしたが、学校から「親や学校への不平・不満を言う場ではない」と指導が入った。学校との信頼関係を崩さずにやってきたが、大人が身構える必要があるのだろうか。
 - ・子ども会議は出された意見をどう扱えばいいのか。活動に反映させるべきか。言ったままの場合もある。
 - ・テーマ決めなど学校主導。代表者が集まるので毎年同じ子供が集まる傾向に。「あれは子ども達の本当の意見なのか？」という意見が反省会が出る。
 - ・本音を話せる場作りをしたいが、出来ているかどうかは疑問である。
- 教育を語るつどいについて
- ・講演会がメイン。
 - ・地域の人たちが同じテーマで学び、話し合うことでつながりを作る場だと思う。
 - ・講演会は良いと思う。子育て世代の親が来てほしいが、参加してくれるのは年配の方が多い。
 - ・今年度、朗読劇を行ったら評判は良かった。
- その他
- ・毎月、運営委員会を実施していて、+αでネットワーク会議となると、充実するとは思う。しかし、寺子屋など他の事業もあるので整理が必要かも。

【グループ6】

- ・事務局からの今日の提案は、整理できて来たと思う。一緒に活動したい。
 - ・事例発表も、情報提供も、分かりやすくよかった。
 - ・事例発表にあった、情報を整理する話も面白い。
 - ・事例発表、参考になった。すごいな、うちはそこまでいけないという思いも。
 - ・中学校区が地域学校協働本部となっていくようだが、行政区の立ち位置はどうなるのだろうか？不要になるのか？行政区は各中学校区の課題をまとめる機能を持っていると思っていたが。
 - ・うちは学校ごとに事業を分担して、担当校のPTA役員と先生が企画運営している。先生に関わってもらってきたので、本部が独立していくことは難しい。事務局も先生主体なので、体制作りに2～3年はかかる。
 - ・事例報告があったので、コミュニティ・スクールの話が分かりやすかった。
- 教育を語るつどいについて
- ・時節に合ったものを題材にしている。
 - ・実施する中で、何を共有したいか考えて行くと良いと思う。
 - ・分科会形式で参加者の意見交換の場と考えている。
 - ・地域の子どもの課題を抽出して、ワークショップなどで、みんなで考える場にしている。学校・地域などの役割を確認し、問題・課題を見つけて、解決に向かう。
⇒参加者は大勢集まるの？
⇒そんなに大勢は来ないが、広く広報している。問題を見つけて考える場だと思っている。
 - ・「語るつどい」という言葉は固いので「講演会」としているが、あまり集まらない。

【グループ7】

- ・だいぶ整理されてきている。川崎らしいやり方が出来上がれば良い。
- ・今日の説明は、なるほどと思った。

- ・分かりやすくなった。ネットワーク会議は何をするのか、始まってみないと分からないが、各中学校区で直面することが違ってくると思うので、そこに対応してほしい。
- ・上村君のような事件が二度と起こらないように。構ってほしい中学生を地域全体でも守り、寄り添ってほしい。コミュニティ・スクールと本部の活動がそのような地域に近づく取組になるといい。
- ・スッキリしてきたが、行政区はまだ分からなくて不安もある。
- ・行政区議長が何回も話し合ってまとめてきた。今日出したものはたたき台、実際にはやってみないと分からないが、各地教はそれぞれ状況が違うので、まずはやってみて形を作っていくしかない。
- ・本部が主体的に活動していくことが大事。下請けとなってはいけない。

○教育を語るつどいについて

- ・講師を呼んで行っている。
- ・子どもの教育にかかわる講師を呼んだ講演会をやっていたが、最近は大人の学習会や工場見学などラフになってきた。
- ・大人に対する情報提供をして、グループ会議をしている。テーマに基づいた話し合い。
- ・分科会形式だと参加者が講演が終わったところで帰ってしまうので、ワークショップ形式にした。中学生にも参加してもらい、生の意見も。

○子ども会議について

- ・行政区主催で、中学生会議をしている。生徒会中心だが、毎回の参加者は少なくない。かつて子ども会議に参加した人が、委員になっているので、子どもの心をつかめているのかも。
- ・今後どうあるべきか。本質を見直して、やれるものを行っていく。
- ・学校を通して子どもたちを集めると、良い子が来る。上村くんのような子を、救い上げられるのか。
- ・義務だからやっているが、子どもの本音が子ども会議から出てくるのだろうか。

【グループ8】

- ・情報提供にあったコーディネーターは誰になるのだろうか。ネットワーク会議は、うちは定例会でできていると思う。
- ・何を変え、何を継続していくのか考える必要がある。

○教育を語るつどいについて

- ・教育を語るつどいは、先生・地域・保護者が話し合う会ではないだろうか。先生ありきの事業だと考えている。
- ・地教を知ってもらう会になればよい。
- ・一般の先生との交流の場が作れるところが、地教のいいところだと思っている。
- ・うちは委員同士の情報共有の場としてやっているが、協働本部の理念と変わらない。

○子ども会議について

- ・生徒会が中心。
- ・子どもの交流の場だと思う。

【グループ9】

- ・学校主体だと先生が異動してしまうと引き継がれないこともあるので、地域主体にしてきた。負担なく誰でもできるように、例年同じことをしている。
- ・地域コーディネーターは1校に1人なのか、何人でもいいのか。
- ・現状、地域主体で運営しているので、実際は変わらないと考えればいいのか。

○教育を語るつどいについて

- ・例年、芸術鑑賞的なイベントを実施している。感想・意見交流や質問の時間をとり、単なる鑑賞会にしないようにしているが、区の交流会では「語っていない」との指摘もあった。地域が考えるべきテーマを選び、大人向けにやっている。事務局校の提案でやっているの、先生に頼っている面もある。
- ・事務局校よりアイデアを出してもらい、講演会を実施している。先生主導。
- ・地域に対して、子どもに目を向けてもらうようなテーマを考えている。
- ・昔は住民中心だったが、今は学校の活動に乗っかっている感じ。
- ・講演部会として、学校の先生中心で進めている。
- ・もともとは、市内の学校が荒れていた中、学校だけでなく地域で子どもたちを見ていくということで、川崎市の地域教育会議が誕生した。そういう経緯もあり、かつては講演を行っていたが、人が集まらなくなり、今は芸術鑑賞をしている。しかし、話し合える機会を失うのはまずいと思っている。
- ・今は近所づきあいも希薄になり、地域教育会議が誕生した頃とは地域の課題も変化してきた。「教育を語るつどい」というと堅苦しいが、世代を超えたコミュニケーションの機会になればいいと思う。地域教育会議のメンバーだけが「行かされる」のでは意味がない。もっと広く地域教育会議を知ってもらい、大人も子どもも一緒に参加できる場であるといい。
- ・「教育＝教える」ではないので、単に話を聞くのではなくて意見交換も大事。「教育を語るつどい」の意味もとらえづらいが、「これでなければいけない」というものはないと思う。

○子ども会議について

- ・中学校の生徒会がテーマを決め、進行をする形で、小学生と交流。
- ・行政区の子ども会議は、各中学校の生徒会が集まって話し合いをしている。中学校区の子ども会議は中学生主体で小学生と話し合いをするパターンが多い。
- ・いい子たちばかりなので意見対立がなく、新たな気づきが生まれにくい。参加した子は、知らない子と意見交換ができたということで満足しているが、どのようなテーマに問題意識があるのか分からない。学校の先生にとっては、子どもたちのリーダー研修的なものになっているようだ。
- ・以前「道端にあるタバコの吸い殻をどうにかしてほしい」という意見が出たが、その意見を地域で吸い上げることができなかった。そうすると「何のために子ども会議をしているのか」分からなくなってしまう。今は子どもたちから意見が出てこない。

【グループ１０】

- ・小中連携を大切にしている。
- ・住民委員が少なくマンパワーが足りず、やりたいことが実現できない。他の中学校区と連携して事業を実施している。さらにネットワーク会議までできるのだろうか。
- ・ＰＴＡの役員や民生委員を辞められる方を口説いて住民委員を増やしている。住民委員募集のチラシをまいても意味がない。来たら楽しい場、来て良かったと思える価値のある会議になるように心がけている。
- ・元ＰＴＡだが苦勞も知っているので誘いづらい。ＰＴＡの時は「子ども達のため」と言えたが、地教はよく見えない。
⇒うちも土台作りには数年かかった。みんなが活動を楽しむことが大切。
- ・行事ありきの地教もあり、何のために地教があるのか見えていないところもある。

○教育を語るつどいについて

- ・グループワークを大切にしたい。
- ・子どもを守るための活動、ということを目的にしている。
- ・子どもの育ちに関する講演会と、大人、子どもでの意見交換を行っている。教育語る集

いは継続していきたいと考えている。

- ・子ども会議でも、寺子屋でも、学校でもないものを、教育を語る集いでは企画したい。
- ・子どもを守り、育てるために親を育てていきたい。
- ・映画でも講演会でもいいのだが、同じものを見て（聞いて）、語ってもらいたい。
- ・今は「やらなくてはいけない」と思っているが、もしなかったら困る？

7 全体共有での質疑応答など 摘録

Q 現状は学校の印刷機を借りているが、今後は先生の働き方改革でもっとやりづらくなるのか心配。我々は現役世代が多いので、土日印刷などの作業ができないと困る。活動する場、拠点となる場所を与えてもらえるのか。

→確かにそういう課題はある。今すぐに提供できる場所を示すことはできないが、各行政区に市民館があり、印刷機を借りることはできると思う。ただ、学区の中で土日や夜間に使える場所も必要だと思うので、今後の課題としたい。（生涯学習推進課）

→学校の印刷機は極力使わないようにしている。ラクスルなどネット印刷の方が学校の印刷機よりも安く済むし、労力もいらない。会議の資料も、極力ペーパーレス化を進めている。手元の資料ではなくてモニターを見ながら打ち合わせをするようにしている。（参加者）

Q 情報提供の資料では、地域コーディネーター養成研修を行政区が担うイメージのようだが、もう少し説明がほしい。

→まだ中身は全然決まっていない。いきなり各区にお願いするつもりはなくて、来年度は全市でまとめて講座を実施してみて、徐々に各区に広がっていくといいかな、というイメージをもっている。コーディネーターには、まずは事務局的な機能を担っていただき、その上で、養成講座などでコミュニティ・スクールと地域学校協働本部のあり方を学んでいただきたいと考えている。（生涯学習推進課）



Q 学校と地域が協働で活動するというが、教育の内容に関してどれだけ地域と一緒にやっていけるのかが見えない。

→学校教育で教えるべき内容は決まっている。学校教育推進会議や学校運営協議会でその内容や学校運営方針、1年間の行事の説明等を行っている。そこで地域住民の声をいただいたり、場合によっては地域の方に学習の手伝いをお願いしたりすることもあるが、教育内容については決まっているので、一緒に決めていくのではなく、学校が説明をして理解していただくという形。学校教育でやるべき内容と地域教育としてやるべき内容は分けながら考えてほしい。（教育改革推進担当）

→地域が学校に入って学習支援の手伝いをしているが、学校の意向が一番になってしまう。地域としての思いがあってもはねつけられてしまう印象がある。一緒に話し合っていけるようになるのか。具体的には、掛け算九九の支援をしている学校があり、別の小学校にもそれをやりたいと伝えたが「結構です」と言われてしまった。制度が変わると公平な立場で話し合いができるようになるのか。

→学校での教育内容については教職員が計画的・意図的に考えている。九九の指導も含めて、教育内容は学校が計画している。その中で地域にお願いしたいものがあればお願いするということであり、それは今後も変わらない。寺子屋事業やわくわくプラザなど放課後の活動や地域の活動の中で、アイデアを発揮することは可能だと思う。（教育改革

推進担当)

- Q 資料では、行政区地域教育会議が中学校区地域教育会議を支援するという形で図に示されているが、実際には中学校区が行政区をサポートすることもあるので、必ずしもこの矢印のとおりではない。中学校区を結び付けるなど、行政区にしかできないことも確かにあるが、実際に現場で子どもや学校と直接やりとりをしているのは中学校区なので、行政区には行政区にしかできないことに専念してもらい、子ども会議や教育を語るつどいは中学校区が頑張るほうがいい。図については検討してもらいたい。
→今後の表現方法については検討させてもらおう。(生涯学習推進課)

- Q 土橋小の報告の中に、協議と実働を切り離すとあったが、少し心配に感じる。考えたことを実際にやってみると思ったようにいかないこともある。話し合っただけで決める人と、それが下りてきてやる人、というのは両輪ではなくて上下関係があるような気がする。
→切り離しと言っても完全に切り離しているわけではない。運営協議会の中にCSサポート本部の本部長と副本部長が入ったり、反対に運営協議会のメンバーがCSサポート本部に入ったりするなど、重なる部分を作っているところがある。今年度から始まったことなので、まだまだ試行しているところである。(土橋小CS)
→きっちり分けられているというよりも、重なりをもちながら一体的にやっているイメージなのではないかと思う。(生涯学習推進課)

- Q 資料の中に、地域教育コーディネーターとして位置づけ、謝礼1,000円の予算を追加するとあるが、これまでの地教の予算以外に人件費がつくのか。何時間分つくのか。つけられた予算を支給するしかないと思うが、どのように考えているのか。学校が担っていた事務局的な作業とはどこまでなのか。
→みんなで行っているのでは誰か1人をコーディネーターにと言われても困るという意見もある。来年度については行政区の議長さんと相談しながらモデル地区10か所を決めていくが、会計や会議資料の作成、事業の企画・運営など全てを学校がやっていて、地域のみなさんは総会に参加して承認するだけの役割になっているところこそ、この制度を導入して先生たちの負担を取り除くようなモデルを広めたい。地域のみなさんが主体となっているところに無理に予算をつけてコーディネーターを1人決めてもらうようなことは考えていない。来年度はコーディネーター1人当たり60時間分の予算を想定しているが、学校につき1人と考えているので、2小1中ならば3人となり、それぞれに60時間分の謝礼を考えている。それがどう使われるかも含めて、1年かけて検証していく。(生涯学習推進課)

小田嶋教育長より

子ども達が地域の皆さんのお世話になっていると常日頃から感じている。地域が学校を支えているのが、川崎の強みである。

かつて、校内暴力がひどいときがあり、学校が地域の力を借りなければ立ち行かないという流れの中で「教育を語るつどい」の前身である「地区懇談会」がスタートした。当時は学校と地域の連携も不十分で、地域の懇談会に出ると、先生が批判されていた。それでは学校と地域の連携が進まないということで、地域教育会議に発展した。川崎の地域教育会議は全国にも誇ることができる、全国から注目されてきた活動で、コミュニティ・スクールでやろうとしていることと重なる部分が大きかった。

時代が変わり、地域教育会議の課題も変わってきた。今の子どもたちの状況は、かつての校内暴力の頃とは全然違う。平成の時代は、社会・子ども・家庭など、大きな変化があった。この5年10年でも世の中は変わり子どもたちも変わってきた。令和に入り、これからの変化もますます大きくなっていくだろう。そんな中で学校はどうあるべきかを考えると、来年度から実施される新学習指導要領の柱の一つである「社会に開かれた教育課程」で、地域との連携がますます重要だと言われている。地域との連携の仕方も変わってきている中で、今回は地域教育会議の新たな一歩として事務局から今後の取組を提案させてもらった。玉川中学校区も宮前平中学校区も非常に先進的で参考になる取組で、グループワークの中でもそういう声が多かった。

これからも課題はあるが、川崎の子どもたちと一緒に支えていただきたい。



8 アンケートまとめ（回収数35枚）

（1）交流会に参加して

① どの程度満足されましたか	1. 満足 2. どちらかという満足 3. どちらかという不満 4. 不満 回答なし	28.6% 60.0% 11.4% 0% 0%
② 交流会に参加して、新たな気付きはありましたか	1. あった 2. どちらかという、あった 3. どちらかという、なかった 4. なかった 回答なし	54.3% 40.0% 2.8% 2.8% 0%
③ 新たな知り合いができたり、今まで知らなかった人と話すことができましたか	1. できた 2. どちらかという、できた 3. どちらかという、できなかった 4. できなかった 回答なし	40.0% 48.6% 8.6% 2.8% 0%
④ 今回の交流会は、子どもや地域のことを考えるきっかけとなりましたか	1. なった 2. どちらかという、なった 3. どちらかという、ならなかった 4. ならなかった 回答なし	51.4% 34.3% 8.6% 0% 5.7%
⑤ 今回の交流会は、地域の課題を認識し、問題意識を持つきっかけとなりましたか	1. なった 2. どちらかという、なった 3. どちらかという、ならなかった 4. ならなかった 回答なし	45.7% 40.0% 14.3% 0% 0%
⑥ 地域教育会議の活動に関心を持ちましたか	1. 関心を持ち、今後参加してみたい 2. 関心は持った 3. 関心を持たなかった 回答なし	48.6% 34.3% 2.8% 14.3%

(2) 自由記述欄

- ・プログラムがよく構成されていて、スムーズに分会に流れ、最後に共有できたのが良かったです。

(質問1)「ネットワーク会議」はどの程度の頻度で開催する必要があるか、限定されるのでしょうか？

→少なくとも年2回以上開催することを目安にさせていただきたいと考えていますが、モデルとなる地域の実情に応じて一緒に検討していきたいと思います。

(質問2)各中学校区での規約を教育委員会で承認する形になるのでしょうか？(名称変更もあるのでは)

→規約は、これまで通り地域教育会議ごとに制定、改正していただければと思います。

(質問3)令和2年度からのモデル10か所については、どのようにして決まるのでしょうか？

→これから行政区の地域教育会議や、候補となる中学校区と相談をしながら、決めていきたいと考えています。

- ・グループ討議の人数は少なめで良かった。時間が少ない。
- ・活動の盛んな中学校区の事例発表は、参考になりました。改革は必要だと感じます。
- ・ネットワークの構築について、詳しく知ることができて良かった。
- ・本部の件大変ご苦労様です。皆で取り組んでよいものにしていきましょう。
- ・報告内容を理解するには資料や時間の工夫がもっとあるとよいのでは。
- ・教員の働き方改革と地域学校協働本部の話はもともと別の課題です。一体で解決することではない。
- ・「本部」はネットワーク会議が必須で他は任意ですということでは、協議が十分なされなくなるのでは。例えば、語る集い、子ども会議を通じて互いの意見を尊重し、表明していくことを醸成しようということは、大切だったと思います。これをどう保障するか、(やらないでよい)(負担だという)(不要だという)空気にならないようにしてほしい。
- ・教育を地域に開き、地域の教育力を上げ、合意形成を、ということは「本部」になっても変わらないのだから、話し合い、理解し合う民主主義が大切だと思う。話し合うのは億劫だ、という地域ではなく、根気よくつながり合い、話し合うことを志向するのだと思う。玉川中学校区のような情報共有法は一理ありますが、地域の人々は多様です。多様さを受け入れる地域教育会議でなければと思います。
- ・当初、国の方針であるとか、CSは学校の人事権にも口を出すのだとか、CSと協働本部の話も混ざってよくわかりませんでした。先生の働き方改革という話も出てきて、何のた



めにやることなのかが見えませんでした。今日示された方針からは、ネットワーク会議で地域の子供達に関わるリソースを共有することをまずやろうということが見えたので、ようやく自分の問題意識とつながったというのが正直なところですよ。

- 事例紹介は大変有意義だったと思います。グループ討議はやっぱり押してしまって、時間が足りなかったですね。
- 事例発表2つは参考になった。違う場でヒントなりを詳細に教えていただきたい。ネットワークでの連絡手段情報共有、方法など。
- 直接お会いする場は大切に、ありがたかった。
- 全体的に参加者が少なかったように思う。先生方の土曜日の事業への参加が無理になってきたのだろうか。地域コーディネーターの説明は、今回のものが一番わかりやすかった。「学校が事務局を担うことはありません」の説明で、今まで通り住民委員が事務局を担う形で良いことが分かった。玉川中地域教育会議の「子どもが喜ぶイベントは、他の団体に」の考え方には賛成できない。
- 途中参加（グループ討議から）でした。各中学校区の活動が聞けて参考になったが、私達の中学校区に取り入れられるか？今後どうしたいか？どうしていきたいか？話し合っていければと思いました。
- これ以上仕事を増やすと成り手がなくなるのではないかな。無理なく楽しくやるのが大事だと思います。
- 行政区、中学校区の連携、情報共有が薄い点を今後改善したほうがいい。こういった交流会が他のメンバーにも共有できるようになること。
- 宮前平中学校区の事例発表はとても分かりやすかった。今後の参考になると思いました。玉川中学校区の新たな取組も、地域教育会議の改革につながっていくと思います。
- 事例報告がとても参考になった。行政区のあり方を早く明確にしてほしい。
- 地域における様々な市民活動団体との連携がしやすいような形になると良いと思いました。（予算面、人の面）地教自体がやや古いシステム感があります。フラットな関係性を構築していくことが若い世代も関わりやすくなるのではないのでしょうか。学校、地域が対等に関わり合えるようになることを望みます。
- 「子ども会議」に参加してくれた子どもが、地域が好きな大人になってくれたらと思いました。「子ども会議」で話したことが、大人を動かせることができればやりがいがあると思う。引きこもりの子どもたちの意見も表明できれば。子ども会議に出てこない子どもたちの意見表明は。
- 今後の地域教育会議のあり方について明確になり、イメージしやすくなりました。予算をいただいてより良い地域教育会議の活動をしてまいります。
- 他の中学校区の活動について、CSについて参考になった。親御さんの価値観が多様化する中で、やはり少しでも、細くてもつながって知り合いを増やしていくことの大切さを感じました。自分にできることに、また取り組んでいきたいと思っています。

- CS についての話が聞けて良かったです。地域学校協働本部について、具体的に説明を受けて良かった。やっと筋道が見えてきました。事務局の説明が分かりやすかったです。
- (質問) コーディネーター謝礼について1h: 1,000 円×3 校、各学校(地域) から 1 名出すということですか。
→例えば2小1中の3校であれば3人分(1,000 円×60 時間×3 人)の予算を想定しています。将来的にはこのコーディネーターが学校運営協議会の委員を兼ねていただくようなイメージですので、各学校の担当として1名ずつというイメージですが、地域の実情に合わせて、この予算内でやりくりできれば、1人で全ての業務を担う場合も、或いは複数の人数で役割を分担しあう場合もあるかと思います。
- 各地域の活動や問題点等、参考になりました。学校が主に運営を担っている状態が多いことが分かった。
- 具体的に他校区の活動と課題が聞ける機会は良いです。
- グループ討議の中で、地教自体のあり方についてや、今後の活動についてもっと深く話を聞きたかった、と思った方がいました。いろんなコミュニティの中で、活動がうまく回っている所と人手不足や行き詰っている所があるということがはっきりと感じられました。2・3 班での付け足しで発言された方のご意見、確かに今までの慣例や常識が多様化され、多角的な考え方が必要なのかな?と思いました。やはり話してみないと分からないことがいろいろあると思いました。大変有意義な交流会でした。
- 7区51中学校区あると思うが、各地教で成熟度に違いがありすぎる。この状況下で十羽ひとからげに「本部化」等、頭で理解しても腑に落ちないのではないかと。ちょっと各地教に任せすぎている⇒進度がバラバラなところがあると思う。まずは統一した能力の付与をすべきではなかろうか。また、教員に対しては、働き方改革を明確にして、残業等云々の話が出ているが、我々住民委員はボランティア精神全開でやっている。ならば学校(教員)は完全に別にするしかないのでは?(そうすると全く目的を果たせないが)
- グループ討議の時間をもう少し長くしてほしい。あまりにも短く、もっと聞きたいことも聞けず、問題提起もできずに終わりました。

16回川崎市地域教育会議交流会 各地域教育会議のパネル











